RCNP 研究会報告書

タイトル:　J-PARC ハドロン物理の将来研究計画を考える」
日程:２００８年９月１日（月）－２日（火）
開催場所:　理化学研究所　大河内ホール
参加人数:８０名
世話人:岩崎雅彦（理研）、野海博之（RCNP）、四日市悟（理研）、
後藤雄二（理研）、大西宏明（理研）、肥山詠美子（理研）

研究会内容と成果:
本年度中に予定されているハドロン実験施設へのビームの取り出しに向けて、J-PARC建設も最後の追い込み体制に入っている。これに並行して、最初に行われる実験の準備も鋭意進行中である。2009年度から本格的に実験が始まる予定である。しかしながら、ハドロン実験施設は、最初、一本の一次ビームラインに対して、ただ一つの２次粒子生成標的という配置を余儀なくされている状態でり、今後、ハドロン物理(*)分野をさらに発展させていくためには、K1.8ビームラインとその分岐（K1.8BR）以外の２次ビームライン等の基盤的設備について、順次、整備・拡充していく必要がある。
　そこで、昨年（２００７年）１１月にRCNPにおいて、ハドロン物理実験家が一堂に会し、ハドロン実験施設をより充実させるための実験課題や整備すべきビームラインについての研究会を開催することで、活発な議論が行われた。
今回は、理論家と実験家を集めて第２回研究会として、５年後、１０年後にはどういう実験を行うべきか、そのためには、どういうビームラインが必要か、という議論を行った。本研究会はパネルディスカッション方式をとって、議論を中心に進めるスタイルをとった。約８０名の参加者が集まり、高エネルギーハドロン物理、マルチクオークシステム、ハイパー核、g-2など、J-PARCで展開されうる物理について様々な観点から活発な議論が行われた。本研究会で議論されたことが、今後の物理の発展に大きくつながることを期待する。